

学校教育評価表（小・中学校）

学校名

大津市立 唐崎中学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項目	評価の観点	自己評価 (3・2・1・0)	自己評価に関する説明	学校関係者 の評価 (2・1・0)	学校関係者からのコメント
主体的・対話的で深い学び	1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	今年度もコロナ感染予防のため、ペア学習やグループ学習に制限があり、学級・学年集団作りの実践は充分ではなかったが、生徒たちは落ち着いた雰囲気です。生徒たちの主体的・対話的で深い学びを追究するために、校内授業研究会や夏期職員研修会を行い、指導方法の工夫・改善を積み重ねた。校内授業研究会の外部講師からは授業参観を通して本校の生徒たちが「学び合い」を意識して学習に取り組んでいるという評価が得られた。今後は学習用タブレット端末によるICTの効果的な活用を図りながら、より一層生徒のコミュニケーション能力を育成していきたい。	2	コロナ禍3年目の本年度も何かと制約の下、研修会等を開催され、目標意識を持って自己啓発に取り組まれた。生徒のコミュニケーション能力を高めていくことは、大変重要なことだと思う。その力を十分に伸ばしていきたいという意気込みを感じた。コロナ禍の中で、従来のような学び合いの授業が難しくなっている中で、様々な工夫を凝らし、実践的な学習に努力されていることは評価できる。今後も工夫・改善を重ねていただきたい。 先生や家族が自分の良いところをわかっているという絶大な安心感のもと落ち着いて学習に取り組んでいる。 生徒・保護者ともにアンケートでは家庭学習に取り組む時間がやや少なくなっている。学校以外でも学習に取り組むようになる工夫があると良い。家庭学習でのiPadの効果的な活用を一層図っていただきたい。
	2 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	3			
	3 主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会	2			
道徳教育の充実	4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳実践力を育てる活動の実施	3	第2、3学年では、学年教師で入れ替わり授業を行う「ローテーション道徳」を昨年度に引き続き進めることで、生徒が様々な大人の価値観に触れるきっかけを作ることができた。また、第1学年ではローテーション道徳を行わなかったが、担任が学級経営の一環として各クラスの実態に応じた道徳授業を行うことができた。さらに、教科書の内容にとどまらず、ICTを活用して動画や漫画を題材として取り扱うなど、生徒の興味を高める工夫を行った。授業公開については、1学期に研究授業を行い、3学期には保護者へ向けて道徳の授業公開を行う予定である。 今後の課題として、道徳掲示板の拡充が挙げられる。生徒が道徳実践力を高める契機となるよう、より積極的に道徳掲示板を活用していきたい。	3	生徒や保護者アンケートでも高い評価となっている。人格形成の観点からも、中学生の年代は力を入れてほしい。また、保護者を含めての道徳の授業はとても重要なことだと考える。 生徒たちの意識や興味を高めるための、先生方の努力や工夫が素晴らしい。生徒が様々な大人の価値観に触れるきっかけ作りをされているところ、今後も工夫していただければと思う。 絆が薄れていく現代、他者を思いやる人間育成に努めてほしい。
	5 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流	3			
	6 保護者等への道徳科の授業公開	2			
体力づくり	7 たくまい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	今年度は感染症対策を行いつつも、学年中での交流やICTを活用し生徒たちがお互いの意見を伝え合うなどの取り組みを実施した。例えば2年生では、文化庁の取り組みでコンテンポラリーダンスを指導していただき、生徒たちのコミュニケーション能力の向上に繋がったり、3年生では、クラス対抗ハンドボール大会を実施し、仲間とともに運動する楽しさを感じたりする取り組みを実施することができた。また学校全体としては、毎時間5分間走を行っている成果として、大津市駅伝大会で優秀な成果を収めることができ県大会に出場することができた。	3	制約がある中でやれる範囲で実施された。いろいろ工夫して活動されている様子が確認できて安心した。仲間と共に運動する楽しさを味わえた点が良かった。お互いの意見を伝え合うという取り組みを実施され、体力づくりに努められた。 コンテンポラリーダンスを取り入れたのが面白くてよい。今後機会があればヨガや太極拳等でも良いので防衛体力の向上も目指してほしい。 日頃の練習の成果が県大会（駅伝）に出場できたことにつながっていることは喜ばしい。
	8 体力づくりを推進する運動実践	2			
	9 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2			
指導改善 (組織的・計画的)	10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	3	学力向上を目指した指導体制として、学期に1度、校内授業研究会を実施し、キャリア教育の視点を踏まえた、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を積み上げることができた。特に、2学期の校内授業研究会では、滋賀県キャリア教育研究会と連携を図り、他校からの参観者とともに、授業改善に向けた研究及び研修が実施できた。 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上のための取組としては、昨年度に引き続き、職員会議の中に、特別研修の時間を一定時間設け、毎回、管理職や教職員が講師となり、時宜に合った内容について研修することができた。また、OJTに関しては推進リーダーを中心に、ニーズに合わせた研修を実施し、若手教員の育成に努めることができた。 教育活動の質の向上に関しては、コロナ禍を意識した上で、規模・時間の縮小等の工夫をすることで、計画通りに行事を実施したり、保護者の参観を実現したりすることができた。ただ、働き方改革の取組については、職員の意識向上は見られるようになったものの、全教職員の超過勤務解消には至っておらず、課題は残っている。	3	先生方の一人ひとりの能力向上やノウハウの取得のため、組織的、計画的に研究会や講習会を開催されている。授業改善に向けた積極的な取り組みをされていて、その意欲が生徒たちにも必ず伝わっていくものと思われる。学力向上に向け、地道に継続して実践していただきたい。 働き方改革の中、指導力の向上、指導方法の改善等に取り組むことは大変なご苦労だと思う。改革が実感できるまで健康には充分留意して、粘り強く取り組んでいただきたい。各教職員及び管理職の一層の創意工夫により解消が図られるよう努力してほしい。
	11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	3			
	12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2			
育ちと学びを支える連携					
① 家庭・地域との連携・協働	13 保護者の子育てに対する積極的な支援	3	1学期及び2学期の終わりに全校生徒に三者懇談を実施した。日頃の家庭連絡等、家庭との連携も積極的に行った。子育てに悩む保護者には寄り添い支援するとともに、SOや関係機関を紹介し、より専門的な支援に繋がった。また、日々の教育活動や学校の様子について、毎月の学校通信や学年通信、ホームページ等で積極的に情報発信した。 学校運営協議会では毎回熱心に協議いただき、生徒との意見交流も行った。例年、地域の協力のもと寺子屋学習会や赤い羽根共同募金活動を行っている。さらに、地域学校協働活動推進員より地域の人材を紹介していただき、キャリア教育講演会や性教育の講師をお願いした。また地域学校協働活動推進員が生徒たちと触れ合う取組として、これまでに昼休みに9回来校いただいた。 新型コロナウイルス感染症については、三密の回避や換気、手洗いの徹底などの対策を行った。現在のところ、大きな感染被害を出さずに学校運営を行うことができた。また、防災教育については避難訓練を各学期に1回実施した。次年度はさらに実践的な避難訓練になるよう工夫したい。また、今後3年生でかまどベンチを活用した防災教育を行う予定である。	3	地域や家庭への発信、ボランティア活動への参加が積極的であった。特に赤い羽根共同募金についての積極的な活動については深く感謝したい。地域との関わりを経験することで、子どもたちが将来の地域の担い手となるよう期待したい。 保護者からも学校は電話や来校時に適切に対応されていると高い評価があり、生徒も必要な時に相談できる人がいると半数以上が答えているところからも、日々の支援に努力されている結果と思われる。この先も大変なこととは思いますが、困っている保護者に寄り添う支援を無理のない範囲でお願いしたい。 地域学校協働活動推進員と生徒が触れ合う取り組みは大変貴重なことだと思う。 防災に関しては平時の訓練では大丈夫でも非常時には焦ったり頭が真っ白になって動けない可能性があるもので、あらゆる場面を想定し繰り返し訓練や計画の見直しもお願いしたい。
	14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	3			
	15 防災教育の推進、感染症対策の推進等、安心・安全な学校づくり	3			
② 保幼小中の連携	16 子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	子どもの校種間交流については、1学期に部活動公開を数回設定し、次年度入学予定の児童ならびにその保護者が参観できる機会を設けた。また、教員の出前授業は2月に日を合わせて実施する予定である。 校種間の授業公開について、月1回小中の教職員による相互参観の機会を設けており、小中連携をより密接にするために取り組むことができた。また、今年度は学区保幼小中合同研修会を対面形式で行い、特別支援教育をテーマにして研鑽を深める機会を持つことができた。加えて、「唐崎ブロック人権教育研究会」として学期に1回、部会にわかれる形で研究テーマに沿った実践交流等を行うことができた。今年度、学区の校園の年間行事予定を一覧にしたカレンダーを作成し、各校園が取り組んでいる行事等について共有することにより、より良い保幼小中連携を図ることができた。	2	小中の連携が特に重要であると考えている。制約の下ではあるが、引き続き積極的に多くの機会を設定していただきたい。 各校園の年間行事予定を一覧にされたことは、とても良い案だと思う。来年度からもこれを生かしたより良い交流をされることを期待する。
	17 校種間の授業公開や合同研修会	2			
	18 保幼小中の接続期の教育課程の編成等校種間のカリキュラム研究	2			
組織的体制の充実					
① 生徒指導体制の充実	19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	週1回の生徒指導部会と教育相談部会で、情報共有と様々な問題行動等へ対応や未然防止について検討することができた。いじめについては、毎月「お悩みアンケート」と学期に1度「いじめアンケート」を行い、早期発見・早期対応につながった。また、被害生徒の立場に立って、子ども支援コーディネータを中心として組織として支援・指導にあたることができた。不登校の問題については、生徒・保護者に寄り添いながら丁寧粘り強く対応しており、関係機関とも積極的に情報共有を行った。校則について、「多様性に配慮できているか」「時代にあっていないか」等の観点から見直しを行っている。	3	諸施策を実施され早め早めの対応で未然防止に努められている。いじめについては、早期発見早期対応も重要だが、発生させないことが一番大事なことだと思う。引き続き、生徒に寄り添ったきめ細やかな対応をお願いしたい。 校則について、生徒一人ひとりの多様性や時代に合っているかの見直しをすることは、偏った考え方を顧みることができ、何より大切だと思う。
	20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3			
	21 家庭・地域・関係機関との連携による指導	3			
② 特別支援教育の充実	22 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	1,2年生で学習につまずいている生徒の発達検査結果から、子ども発達相談センターや教育支援センターの巡回相談のアドバイスをいただき、一人一人にふさわしい支援の在り方について特別支援教育部会で検討できた。校内に通級指導教室もでき、特性に合わせて活用する生徒も増えてきた。支援学級の体験を行う中で、次年度からの入級や通級が実現し、個々に応じた支援が実現できる体制ができつつある。 唐崎学区特別支援教育充実活動事業の取り組みとして地域の専門家から支援の在り方について、アドバイスを学ぶことができた。	3	外部機関との連携や校内の体制づくり、充実化に努められている。一人一人にふさわしい支援の在り方について十分に検討いただき、関係各所と連携の上、より良い支援教育体制の確立を進めていただきたい。
	23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3			
	24 関係機関と連携した相談体制の充実	3			
学校満足度	25 児童生徒の学校満足度	3		3	
※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.20			
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	1.98			

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと